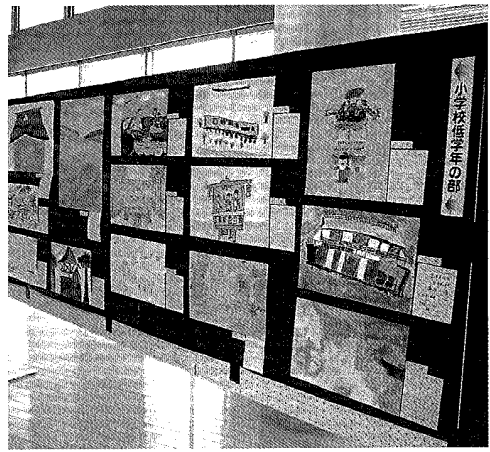


富澤祐之介 (中中三年)
田中 建伍 (六合中三年)



大泉ユネスコ協会

新年を迎え大泉ユネスコ協会も、書き損じハガキの回収ボックスを各施設へお願いし、二十五年度事業は、第七回わたしが撮った「ユネスコ世界遺産」写真展のみとなり準備中です。今年には児童絵画といっしょのため、多数の見学者を期待しています。それと共にユネスコ行事を通して、将来的に会員を増加させる種蒔をし育成したいです。二十六年度は若い人たちへアピールする事業が二つあります。一つは、夏行事の国際理解バスです。町内三中学の生徒を中心に、筑波ジャイカでの海外青年たちとの昼食しながらの英語会話の交流。それに宇宙への夢を身近に感じ取れるジャクサ見学は、将来への進路決定にとっても刺激を与



えてくれるようです。往復のバス車中も、日頃なかなか三中学校の生徒間での会話は少ないため、交流の良いチャンスになります。今回で十九回です。最初に参加した生徒はりっぱな社会人の年齢です。会員候補です。二つ目は高校生の意見発表です。西邑築高校生三名、大泉高校生三名の進路関係を中心にした体験談を、町内三中学を持ち回りでを行います。アトラクションは西邑築高校の吹奏楽部の素敵な演奏付きです。身近な先輩のお兄さんお姉さんたちの話は関心が高いようです。三つ目は世代間交流意見発表会です。発表者は町内三中学生、二高校生、成人、シニア、海外青年、なかなかの人氣です。これらの三事業は中学生、高校生等を中心にした事業で、これからの次世代を担う大切なユネスコ活動の宝物です。少しずつ芽が出て育ってくれることの期待ができる行事です。

世界遺産委員会報告

委員長 北川紘一郎

本委員会の発足(二〇〇六年九月五日)の目的は、当時の矢島会長の掲げた「富岡製糸場と絹産業遺産群」のユネスコ遺産登録支援と、それに相応しい県民性の陶冶、高揚を図る、でありました。以来、委員会は民間サイドとして延べ八年間に亘り積極的にその活動を続けてまいりました。

いよいよ二〇一四年六月には構成資産四件の登録に大きな期待が寄せられることとなりました。本委員会がスタートした時は県内の暫定リスト一〇件が肩を並べて世界遺産に登録されるかと、浮き足立って期待していましたが、二転三転の結果現在の状態で推薦され、登録に向かうこととなりました。

本委員会の活動として①スタディーツアーとして高山社、旧甘楽荘、碓氷峠鉄道施設、碓氷製糸農協、新町屑糸紡績所、境島村養蚕農家群、桐生織物産業遺産群、栃窪風穴、六八合村赤岩養蚕農家群、富沢家住宅、薄根の大桑、富岡製糸場、岡谷(中止)の視察研修を行い、加えて②「世界遺産年報」の丸ごと学習会を日ユ協から講師を招き、県内ユ協の持ち回りで毎年開催。これは県生涯学習センターに始まり、富岡製糸場、中之条、桐生、高崎、伊勢崎、館林、藤岡、安中の各ユネスコ協会との共催で開催致しました。巡回による県内各地での目的に

沿った啓もう活動と実践には各事業とも多くの参加を得て成果をあげてまいりました。この活動に対して、たとえこれらが世界遺産に登録されなくても群馬県内と関連する絹産業遺産群を改めて知ることとなり足元を見直すいい機会となる、という発言もありましたが、しかし、私達ユネスコに携わる者としてはできるだけ多くの物件が登録されることに意義があると考えます。ユネスコ世界遺産は世界の宝物として後世に受け継ぎながら世界中で大切にして行こうという心で「平和の達成」を成し遂げるものです。高いハードルですが沢山の大きな広がりの中でユネスコ精神の普及につなげて行くことが国際平和への道であると思います。「富岡製糸場と絹産業遺産」も登録のあかつきには「平和運動の拠点施設」を主たる目的として運用されることが最優先です。その後に観光も経済もついてきます。今後は「ぐんま絹遺産」や全国の関連産業遺産が「拡張追加登録」や「日本絹遺産群・登録」などにより大きな広がりを持つよう希求いたします。これからは、国内の足固めを積極的にすすめると共にユネスコ人口を大きく増やし「国内の平和思想の普及」につなげるべきです。本委員会も富岡が世界遺産に登録後は、次のステップへ踏み出さなければなりません。皆様からの大いなるアイデアをいただき、再考することとなります。本年もどうぞよろしくご支援・ご協力のお申し込み申し上げます。